

## 北海道における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：国見亮佑（にじいろほっかいどう）

### 研究要旨

道内 5 か所で配布場所を設定し、WEB 配布も組み合わせ、総計 100 キットを配布した。会場を借りての 5 か所での対面配布で 86 件配布した。

アンケートに回答したものは 101 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 79 名であった。91.1%が結果サイトにログインしていた。

HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 15 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 79 名のうち、73 名（92.4%）はアンケート結果 ID との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 73 名の属性については、35 歳未満が 42.5%を占めた。北海道の居住者が 100%であった。これまでの検査経験がなかったものは 26.0%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 72.6%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 49.3%を占めた。

今回は初めての取り組みであったが、当事者団体 2 団体が協力し、道内広域にわたる配布会が実施できた。また広報については仙台地域とも連携できることで効果を発揮できた。

### A. 研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。

また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。北海道地域では、会場を借りての対面配布と WEB にて配布する方式を組み合わせ実施した。

### B. 研究方法

帯広、札幌、北見、釧路、旭川の計 5 か所、12 日間にわたる配布会を設定した。

当初は、にじいろほっかいどうで 4 会場での配布を考えていたが、発注したキットが多かったこと、レッドリボンさっぽろの協力を得られたことなどから、配布回数を増やした。

受け取り希望者には、google フォームの申し込みサイトを作成し、そのサイトから申し込

みをしてもらい、研究協力者が申し込み内容を確認した上で、検査時間や場所、アンケートの協力の依頼をメールで送信した。パソコンからのメールが届かないトラブルがあったので、携帯電話番号を任意で記入してもらうことにした。

広報については、初めの段階では、にじいろほっかいどうの公式サイトと twitter で告知していた。札幌での配布のときには、コミュニティ内の有力者に拡散を依頼した。

2 月 6 日～12 日に東北と北海道で連携したかたちで、アプリ広告を出し、その後研究班独自の広報サイトでの広報に移行させた。3 月の札幌・旭川での配布の前にゲイ向け商業施設へポスターを郵送した。

会場でアンケート QR コードを提示し、自分のスマートフォンから答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後にキットを受け渡す方法をとった。

相談については、キット対面での配布時もスタッフが常駐して対応、また WEB 配布分について、利用方法等、相談があった際は、メールで

対応を行った。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

## C. 研究結果

### 1) 検査キットの配布日・配布件数

対面では、1月17日から3月14日にかけて計12日間、5か所で配布した。申込者は総計101名、受け取り者は86名、HIV検査が生涯初と回答したものは25名であった。北見、釧路、帯広は初受検者が多かった。(資料参照)

アプリ広告の効果は大きかった。特に旭川の保健所で検査提供が停止している背景から、申込者が多かった。

検査キットを持ち帰った者から血液が取れないという相談があり、検査会社に連絡し、相談者の対応に繋げることができた。

表1 郵送検査利用者の概要

	地域	北海道 にじいろ ほっかいどう コミュニティセンター
a 配布数		100
b 受検者アンケート回答者数		101
c 利用者数；郵送検査会社での受付数 利用率；配布数に占める利用者数(c/a)		79 79.0%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録 (割合 d/c)	72 ( 91.1%)	
<b>抗体検査結果</b> *重複感染 (1名)		
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数 (割合 e/c)	1 ( 1.3%)	
f 陽性数 (割合 f/c)	2 ( 2.6%)	
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *	2.3 ( 2.9%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数 (割合 g/c)	5 ( 6.3%)	
h 陽性数 (割合 h/c)	15 ( 20.3%)	
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *	3.3 ( 4.4%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数 (割合 i/c)	73 ( 92.4%)	
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数 (割合 j/c) **	68 ( 86.1%)	

\* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、(利用者数-判定不能者数)に乘じて求めた。

\*\* j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

\*\*\* すべての集計より再受検の重複は除いた。

### 2) 検体の送付状況とアンケートの結果

道内5か所で配布場所を設定し、WEB配布も組み合わせ、総計100キットを配布した。会場を借りての5か所での対面配布で86件配布した。

アンケートに回答したものは101名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは79名であった。91.1%が結果サイトにログ

インしていた。

HIV陽性件数は2件、梅毒の陽性件数は15件(既往歴も含む)であった。検体を郵送した79名のうち、73名(92.4%)はアンケート結果IDとの連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者73名の属性については、35歳未満が42.5%を占めた。北海道の居住者が100%であった。これまでの検査経験がなかったものは26.0%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち72.6%であった。

MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことを全く、あるいはあまり知らなかった人は49.3%を占めた。

## D. 考察

今年度は新型コロナウイルスの影響で、保健所でのHIV検査が休止になり、定期的に保健所で検査を受けていた人が、キットを受け取りに来ることがあった。

東北・北海道広域連携のアプリ広告は、北海道地域でも申し込み件数増加に効果が高かった。HIV郵送検査キットの配布のお知らせが全面に出ていたため、申し込みやすかったのではないかと考えられる。にじいろほっかいどうのみならず、札幌で長く活動しているNPO法人レッドリボンさっぽろとも協働できたことで、北海道内でのHIV予防啓発の活性化につながったと考えられた。今後は、札幌の中心地であるすすき野で配布してほしいという希望が商業施設オーナーより寄せられた。

MSM ALL JAPANのメンバーからも、配布の進め方を相談したり、啓発資材を供与してもらい、受検者に説明する内容を相談したり、連携、協力ができたことが非常に有意義であった。

## E. 結論

北海道地域で、にじいろほっかいどうとレッドリボンさっぽろの2つの団体が協働し、ゆうそう検査キットの配布を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の中、状況が読めない状況が続く中、100キットの配布ができた。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, AIDS

Care, 2020.

DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339

- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. 日本エイズ学会誌, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. 日本エイズ学会誌, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. 日本エイズ学会誌, 22(3), 136-146, 2020

## 2. 学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwashita Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.

## 3. 学会発表 (国内)

- 1) 井上洋士、後藤大輔、船石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代: 成人前期 (20 歳代) MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

## G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

表1 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動

	アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson カイ2乗	
	n=28		n=73		n=101			
<b>年齢階級</b>								
	24歳以下	8	28.6%	10	13.7%	18	17.8%	0.27
	25-34歳	9	32.1%	21	28.8%	30	29.7%	
	35-44歳	6	21.4%	24	32.9%	30	29.7%	
	45歳以上	5	17.9%	18	24.7%	23	22.8%	
<b>国籍</b>								
	日本	28	100.0%	73	100.0%	101	100.0%	-
	海外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>居住地</b>								
	北海道	28	100.0%	73	100.0%	101	100.0%	-
<b>性別</b>								
	男性	28	100.0%	72	98.6%	100	99.0%	1.00
	女性	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
	トランスジェンダー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>セクシュアリティ</b>								
	ゲイ（男性同性愛者）	20	71.4%	53	72.6%	73	72.3%	0.58
	バイセクシュアル（両性愛者）	6	21.4%	18	24.7%	24	23.8%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	2	7.1%	2	2.7%	4	4.0%	
<b>居住形態</b>								
	独居	12	42.9%	41	56.2%	53	52.5%	0.27
	同居	16	57.1%	32	43.8%	48	47.5%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
<b>これまでのHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	17	60.7%	54	74.0%	71	70.3%	0.23
	ない（今回が初めての検査）	11	39.3%	19	26.0%	30	29.7%	
<b>過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験</b>								
	ある	9	32.1%	20	27.4%	29	28.7%	0.63
	ない	19	67.9%	53	72.6%	72	71.3%	
<b>過去1年の受検場所<sup>1)</sup>（複数回答）</b>								
	保健所	8	28.6%	17	23.3%	25	24.8%	0.61
	病院/クリニック	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	郵送検査	1	3.6%	3	4.1%	4	4.0%	
	その他	1	3.6%	1	1.4%	2	2.0%	
<b>過去6カ月間の利用施設（複数回答）</b>								
	ゲイバー	13	46.4%	21	28.8%	34	33.7%	0.11
	ゲイイベント	1	3.6%	1	1.4%	2	2.0%	
	ゲイショップ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
	有料のハッテン場	4	14.3%	19	26.0%	23	22.8%	0.29
	野外のハッテン場	0	0.0%	11	15.1%	11	10.9%	
	いずれもない	13	46.4%	36	49.3%	49	48.5%	0.83

1) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表2 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動

	アンケート回答のみ n=28		検査利用 n=73		合計 n=101		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	15	53.6%	37	50.7%	52	51.5%	0.83
全く/あまり知らない	13	46.4%	36	49.3%	49	48.5%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	25	89.3%	64	87.7%	89	88.1%	1.00
ない	3	10.7%	9	12.3%	12	11.9%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	10	35.7%	14	19.2%	24	23.8%	0.12
友達やセクフレ	16	57.1%	44	60.3%	60	59.4%	0.82
その場限りの相手	11	39.3%	28	38.4%	39	38.6%	1.00
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	20	71.4%	47	64.4%	67	66.3%	0.64
ない	8	28.6%	26	35.6%	34	33.7%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	4	14.3%	22	30.1%	26	25.7%	0.13
ない	24	85.7%	51	69.9%	75	74.3%	
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	5	17.9%	16	21.9%	21	20.8%	0.79
ない	23	82.1%	57	78.1%	80	79.2%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	1	3.6%	2	2.7%	3	3.0%	1.00
ない	27	96.4%	71	97.3%	98	97.0%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	0	0.0%	4	5.5%	4	4.0%	0.57
ない	28	100.0%	69	94.5%	97	96.0%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
ない	28	100.0%	73	100.0%	101	100.0%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	22	78.6%	57	78.1%	79	78.2%	0.97
常用	3	10.7%	7	9.6%	10	9.9%	
過去6ヶ月間にない	3	10.7%	9	12.3%	12	11.9%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	21	75.0%	41	56.2%	62	61.4%	0.11
知らない	7	25.0%	32	43.8%	39	38.6%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	3	10.7%	4	5.5%	7	6.9%	0.19
服薬したい/どちらかといえば	18	64.3%	37	50.7%	55	54.5%	
知らない	7	25.0%	32	43.8%	39	38.6%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	1	3.6%	0	0.0%	1	1.0%	0.28
ない	27	96.4%	73	100.0%	100	99.0%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	2	7.1%	12	16.4%	14	13.9%	0.34
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
B型肝炎	0	0.0%	2	2.7%	2	2.0%	1.00
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	0	0.0%	9	12.3%	9	8.9%	0.06
尖圭コンジローマ	1	3.6%	4	5.5%	5	5.0%	1.00
淋病	0	0.0%	2	2.7%	2	2.0%	1.00
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
毛じらみ	3	10.7%	18	24.7%	21	20.8%	0.17
性器ヘルペス	2	7.1%	4	5.5%	6	5.9%	0.67
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
いずれもない	22	78.6%	38	52.1%	60	59.4%	0.02

資料 郵送検査の配布概要

	配布場所	配布日	配布 担当者数	申込者数	受取者数	HIV 検査初
①	帯広 1 (とがちプラザ)	1/17、22	1名	8名	8名	2名
②	札幌 1 (中央区民センター)	2/6	3名	17名	12名	2名
③	北見 (北見芸術文化センター)	2/12、13	1名	8名	8名	4名
④	釧路 (釧路市生涯学習センター)	2/20、21	1名	5名	5名	2名
⑤	旭川 1 (旭川市民文化会館)	2/21	3名	15名	12名	4名
⑥	帯広 2 (とがちプラザ)	2/23、27	1名	14名	13名	7名
⑦	札幌 2 (中央区民センター)	3/6	2名	16名	14名	0名
⑧	札幌 3 (商業施設)	3/6	1名	12名	12名	4名
⑨	旭川 2 (旭川市市民活動センター)	3/14	2名	6名	2名	0名
計	道内 5 箇所	12 日間		101 名	86 名	25 名

\* 参考 道内の地理

札幌から車で…

- ・旭川 約2時間
- ・帯広 約3時間
- ・北見・釧路 約5時間

各都市の人口

- ・札幌 約200万人
- ・旭川 約34万人
- ・帯広・釧路 約16万人
- ・北見 約11万人

